

光明寺だより

第78号
浄土真宗本願寺派
光明寺

〒793-0030 西条市大町550
Tel 0897-53-4583



心に残る詩



非破壊検査業 福井市 森文子 (60)

夫の職業は
非破壊検査業で

鉄骨の建築物や橋梁に
溶接の不具合はないか
石油備蓄タンクが
油もれしないか
その形を壊さないで
中身の安全を探(しら)べ続け
三十年を超える

いま 夫は
人の心を傷つけるのを
いちばん遠ざける
生きる為のなりわいが
知らぬまに
その人柄も練り上げた

産経新聞「朝の詩」



新盆合同追悼法要

8月13日・14日

両日とも 第1回目 午後6時30分より
第2回目 午後8時より



一口法話



慈悲の唄ー竹部勝之進

お念仏のみ教えに生きた詩人・竹部勝之進（1905-1985）さんは、信心の喜びを多くの詩に残されました。

昭和四十八年に刊行された詩集『はだか』（法蔵館・廃刊）の中に次のような詩があります。

慈悲の唄

もったいないことです
もったいないことです
もったいないことです
私一人は もう助からずとも
私一人は もう助からずとも
よろしゅうございます
もったいないことです
もったいないことです
もったいないことです

（*原文はすべてカタカナです）

お念仏の深い味わいの出た詩です。

詩の中に「私一人は もう助からずともよろしゅうございます」という一節があります。これがこの詩のヤマです。一般に私たちは救いを求める時、「他人はどうであれ、私一人は救われたい」と思うものです。

ところが竹部さんは「私一人は助からなくても結構です」と、言っているのです。これは一体どうしたことでしょうか？なぜそのように言えるのでしょうか？

ここが浄土真宗の信を得る時の大きなポイントになるのです。

この言葉は決して捨てゼリフではありません。これは竹部さんの厳しい自己凝視の中から出た言葉です。

行商を営みながら妻子を養っていた竹部さんは、ふとしたことから皆我量そかりようしん深先生（元・大谷大学学長）にご縁を得て、お念仏の教えに出遭います。

愚かな者が、愚かなままに救われていく……このお念仏の教えに感動した竹部さんは、聞法にいそしみます。

その聞法の姿勢は、詩の冒頭の一節「もったいないことです もったいないことです」という思いを持ったものだった

でしょう。

ところが、そうやって真剣に聞法を重ねれば重ねるほど、愚かで、どうしようもない己の姿が如実に浮き彫りにされるのです。

これが他宗にはない、お念仏の教えの特色です。

教えを聞いて、賢くなったり立派になったりするのではないのです。愚かな自分に目覚めていくことをお念仏は教えるのです。

大悲に包まれてもなお愚痴が口をついて出る、そんなお粗末な我が身に、竹部さんは思わず、「阿弥陀さま、もう放っておいて下さい。いくら愚かな者を救うとおっしゃられても、あまりにもあなたさまにお世話をかけすぎます。もう助からなくても結構です。このようなお粗末至極な私など見捨てて下さっていいのです」と申さずにはおれなかったのです。

しかし、そのように思い、そのように叫ぶ竹部さんを阿弥陀さまの大悲は倦むことなく照らし続けて下さるのです。背いても背い



でも決して見放そうとしないのです。

その「無蓋の大悲」とも呼ばれる阿弥陀さまのお慈悲の尊さに、竹部さんは

「これほどまでに深いお慈悲でございましたか。阿弥陀さまのご本願は、こんな愚かな私を救うためのご本願でございましたか」と、心の底から頷いていくことが出来たのです。

その時、無上の喜びとともに「もったいないことです もったいないことです」と申さずにはおれなかったのです。

救われようのない私であればこそ、間違いない救いたもう大悲であったと絶唱するこの詩は、信心を得た念仏者の無上の喜びを表わした法悦の詩です。

竹部さんは次のように語っています。「懺悔というのは自分ではできません。

懺悔せざるをえない。そういう教えに出遇わしてもらうた。ありのまま、ありのままのわが身は恥ずかしいのだ。その恥ずかしいわが身がわかると、それはもう隠しようがない。ありのまま懺悔せずにおれない。その懺悔のところによるこびが湧き出てくる。よろこびが懺悔のところ

まことにその通りです。

お念仏のみ教えは、ありのままの自分がさらけ出されます。

ありのままの私は、まことにお恥ずかしい私であります、そこには「だからこそ救わずにはおれないんだよ」という阿弥陀さまのこの上もなく温かい大悲のお心がはたらいているのです。

悲しみの懺悔の中に無上の喜びがあるのです。

おおきがんえい 正親含英先生（元・大谷大学学長）は、

「人間における一番大きな幸せは、愚かなるものよ、浅ましき業深きものよ、と云ってくださる人を持った人であり、その呼びかけに頷いていける人生が見つかった人である」と仰っています、以って瞑すべしです。



絶望の果てに

―絶望

ああ絶望することの出来た人よ
絶望のその果てに

立ち上がることの出来た人よ
わが身の宿業をわが身に背負って
立ち上がることの出来た人よ
ああ尊い人よ

生かされている

生かされている
いつも生かされているのであります
撰取の光明の中におさめられて
生かされているのであります
かたじけない
かたじけない

平成24年度「光明寺総代会」開催！

さる5月25日、光明寺本堂において「平成24年度光明寺総代会」が開催され、下記のこと承認可決されました。出席者34名・委任状48名でした

[承認・報告事項]

- ①平成22年度「檀家負担金・特別基金」決算報告
- ②平成23年度「檀家負担金・特別基金」決算報告
- ③親鸞聖人750回大遠忌記念事業経過報告と今後の予定
今後の予定 仏具関係の充実 本堂照明器具整備
継職法要（お代替わり）の実施—平成25年予定
- ④法務員（後藤英樹師）紹介

「宗祖降誕会」つとまる！



さる5月25日、足利孝之先生（兵庫教区・安養寺住職）をご講師にお招きして、「宗祖降誕会」をお勤めいたしました。

当日は総代会も兼ねていましたので50名の参拝者がありました。

【余間】 ちよつといい話

聖加路国際病院理事長の日野原重明氏の言葉を紹介した『100歳の金言』（ダイヤモンド社）という書の中に次のようなお話が載っていました。
……人からお世話になったときに一番いいお返しは「笑顔」であることを私は末期がんの患者さんから学びました。
その方は私が回診し、病室から出ようとする時、彼はいつも、にこっとした笑顔を見せてくれますのです。
「なぜ、いつも美しい微笑をくださるの？」そう私が尋ねると、彼は、こう答えました。
「お世話になった先生に何もお返しが出来ないの、せめて私の笑顔でお返ししたい気持ちから、自然にそうなるのです」
笑顔は人間の持っている最高の捧げものではないかと思えます。……
笑顔の捧げもの—まさにこれは無財の七施の一つ「和顔悦色施」です。どなたも持っている七つの財産の一つです。宝の持ち腐れにならないように、大いに使いましょ。

竹竹法師

☆☆西条仏教会定期講演☆☆ 朗読と声明「くもの糸」盛大に開催

さる5月30日、西条市総合文化会館で女優の小林綾子さん（NHKテレビドラマ「おしん」の子役）をお招きして「くもの糸・朗読劇」が開催されました。

西条仏教会・青年会所属の僧侶の声明と朗読による公演は今回2回目になりますが、前回の岸田今日子さん同様、小林綾子さんの朗読も、その間の取り方、抑揚、リズムといったものが、僧侶の声明に相和して、会場は宗教的な荘厳な空気に包まれ、700余名の来場者に深い感動を与えました。大変心洗われる朗読劇でした。

司会者を交えた第二部のトークショーでは、朗読劇で使われた“ほら貝”を小林さんが実際に吹いてみたり（全く音が出ず、会場大爆笑でした）、おしんの子役時代のエピソードやご自身の芸能活動の近況などを語っていただき大変楽しいトークショーになりました。感動あり、笑いありの素晴らしい講演会になりました。

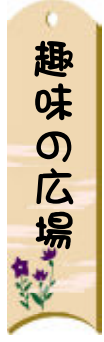


小林綾子さんの朗読風景



仏教会所属の僧侶による読経風景





俳句を楽しむ (五十七)

森本隆を

人間の世の中は次から次へと何事かが起こりまことに落ち着きませんが、天文の運行に伴う四季の推移は確実に、今年も暑い夏を迎えました。節電だエコだと騒しいなかで、せめて人間の知恵を総動員してこの夏を乗り切りたいものです。夏に立ち向かう人間の工夫といえば、俳句の季語の中で私の好きなものに「夏座敷」と「夏料理」の二つがあります。

水の音して水見せず夏座敷 吉原 一暁
山も庭もうごきいるるや夏座敷 芭蕉
箸置も橋のかたちに夏料理 北 光星
味といふ味なきが佳し夏料理 伊藤 妙
しばらくは織部談義の夏料理 佐野 聡
部屋のしつらいや建具、家具の置場所は勿論、外の草木や風景と、あらゆる物に涼感を求めて夏を過ごす部屋を調べ、食欲の落ちる季節にそなえ食器の色や形、旬の食材を夏向きに工夫した調理方法や味付け、私たちの先祖の残してくれた生活の知恵は素晴らしいものです。その中で今回はまたまた食べ物

で申し訳ないのですが、猛暑におすすめの食べ物、食べ物テーマです。夏の代表的な食べ物としてまず「冷奴」があります。

冷奴いつも通りにいつもの客 鈴木真砂女

暑い一日もやっと終わり食卓に向う。冷たい豆腐を生醤油でさっぱりと食べる。さて、ここで冷奴の絶妙に旨い食べ方の「ご提案」があります。ニラの葉を1ミリか2ミリの細さに刻んで適量の塩でもんでおき、冷たい豆腐の上に調味料としてふりかけ、ゴマ油を数滴たらして食べてみて下さい。ニラの塩加減を自分の味覚に合わせてもらえれば、いつもの醤油で食べる冷奴とは又別物の味がします。さて、次は「新生姜」です。七月になると若い生姜を掘り出しよく洗って練切りにして味噌などで食べると香り高く涼味豊かな、そして何となく昔懐かしい味がします。

てんぷらの揚げの終わりの新生姜 草間時彦

鮮明に朝がはじまる新生姜 上田五千石

大いなる益子の皿に新生姜 桑原 月穂

この新生姜の一風変わった食べ方として、曹洞宗大本山である越前吉田の永平寺で供される「新生姜飯」があります。新生姜の細切りを醤油、酒、生姜の絞り汁で味付けして炊き込みご飯にしただけのものですが、なかなかさっぱりした味わいで、食の細くなりがちな夏場にもってこいのごはんです。分量的には米2合に新生姜4分の1片くらいです。この時期、食べ物を

語る時の定番としては、夏ばて防止の「土用鰻」や腹の薬の「土用蛭」があげられます。今年も鰻が無茶苦茶に高価品薄で簡単には食べられそうにもありません。

家長われ土用鰻の折提げて 山崎ひさを

丑の日のけむり窓より昇天す 五所平之助

またの世へ土用蛭を掘ってゐる 齊藤梅子

喪が続き土用蛭の水を張る 宮地れい子

鰻がなかなか居なくて容易に手に入らぬならば、手頃な値の穴子でも買ってきて味をつけず白焼きにしてワサビ醤油で食べるとこれも結構な夏の味で、これも庶民の暮らしの知恵でしょう。ちなみに「穴子」も夏の季語です。いよいよ暑さも本番、時のものを工夫ひとつで美味しく食べて、元気で夏を乗り切ってください。

大穴子樽の形に体曲げ 酒井 土子



住職書作品



語句―大悲無倦常照我
読み―大悲、倦むことなく我を照らす

詩集「まるはだか」

BOOK 本



法蔵館 竹部勝之進
1700円)
発行者 著者 定価

本書は今回一口法話で紹介した竹部勝之進さんの詩集です。『はだか』、『続はだか』（ともに廃刊）に続く第三弾です。氏の作品は一般の詩と趣を異にした信仰の表百の唄ともいべきものです。本書に「はだか」と題した次のような詩があります。

はだか

はだか

はだかである

一切のものがいただける

ああ

ありがたい ありがたい

念仏者の謙虚でしかも自在に生きる境地がうたわれた詩です。読む者の心に深い安らぎを与えてくれます。



次回発行予定ー9月中旬

「光明寺だより」を「ご家族の
皆さんでお読み下さい

王舎城の悲劇の物語
豪華キャストでついに舞台化！

親鸞聖人750回大遠忌記念公演

《創作劇》“親鸞わが心のアジャセ”

9月5日(水) 15:00開演

アルファあなぶきホール(高松市)

料金 S席5500円・A席4500円・B席3500円

お問い合わせ 四州教区教務所 0877-22-3016



言葉のプレゼント

フツテヨシ
ハレテヨシ
ナクテヨシ
アツテヨシ
シンデヨシ
イキテヨシ

竹部勝之進

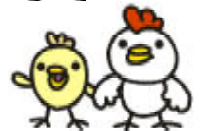
彼岸会法座

9月29日(土)

午後2時

【講師】中央相談員

季平博明先生



テレフォン法話

0897-53-4585



★5月25日(金) 光明寺総代總會・
宗祖降誕会が開催されました。
★5月30日(水) 西条仏教青年会主
催の「くもの糸」講演会(小林綾子
出演)が西条総合文化会館で行われ
ました。七百名の入場者がありまし
た。
(*関連記事5ページ)

(*関連記事4ページ)

